

診断群分類区分の決定

■診断群分類区分の適用の考え方

診断群分類区分は主治医が決定します。その際、下記のルールが定められています。

- ◆ 入院期間（DPC対象病床のみ）に治療対象となった傷病のうち、医療資源を最も投入した傷病をICD-10（2013年版）から1つだけ選択（医療資源を最も投入した傷病が確定していない場合は入院の契機となった傷病）

【傷病名等の分類決定時の主な留意事項】

①下記のICD-10は選択できません。

- ◆ 詳細不明の寄生虫症（B89）
- ◆ 他章に分類される疾患の原因である連鎖球菌及びブドウ球菌（B95）からその他及び詳細不明の感染症（B99）
- ◆ 心拍の異常（R00）からその他の診断名不明確及び原因不明の死亡（R99）まで〔鼻出血（R04.0）、咯血（R04.2）、気道のその他の部位からの出血（R04.8）、気道からの出血、詳細不明（R04.9）、熱性けいれん（痙攣）（R56.0）、限局性発汗過多（多汗）（症）（R61.0）、全身性発汗過多（多汗）（症）（R61.1）、発汗過多（多汗）（症）、詳細不明（R61.9）及びブドウ糖負荷試験異常（R73.0）除く〕
- ◆ 独立した（原発性）多部位の悪性新生物（腫瘍）（C97）、部位不明の表在損傷（T14.0）から損傷、詳細不明（T14.9）まで（主たる部位のICD-10を選択）

②手術等の未実施期間に診断群分類区分を判断する場合、入院診療計画等で確認できる予定手術等も勘案します。

③1入院期間中に複数の傷病に対して治療が行われた場合でも診断群分類区分は1つだけ決定します。

④同一傷病に複数の手術等が行われた場合も、下記に基づき1つだけ診断群分類区分を決定します。

- ◆ 入院中に定義テーブル上の複数の手術等の診療行為が行われ、同一疾患内の複数のDPCコードに該当する可能性がある場合は、「手術」「手術・処置等1」「手術・処置等2」「定義副傷病」の全項目において、ツリー図で下に掲げられたDPCコードを優先して選択

⑤医科点数表で「区分番号K○○○の○○術に準じて算定する」と規定されている手術の診断群分類区分を決定する場合は、準用元の手術で判断します。

⑥脳梗塞（O10060）は、下記に留意して判断します。

- ◆ 「年齢・出生時体重等」の発症時期、JCSは診断群分類区分の適用開始時を起点として選択する（適用開始後に発症した場合は、発症後3日以内、発症時点でのJCSを選択）
- ◆ 重症度等の「発症前Rankin Scale」とは、発症前概ね1週間のADLを病歴等から推定し、以下の0から5のいずれかを選択する（全く推定できない場合は5を選択）
 - 0 全く症候がない
 - 1 明らかな障害はない（日常の勤めや活動は行える）
 - 2 軽度の障害（自分の身の回りのことは介助なしで行える）

- 3 中等度の障害（何らかの介助を必要とするが、歩行は介助なしに行える）
- 4 中等度から重度の障害（歩行や身体的要求には介助が必要）
- 5 重度の障害（寝たきり、失禁状態、常に介護と見守りが必要）

⑦肺炎等（O40080）は、下記に留意して判断します。

- ◆ 「市中肺炎」の該当の有無は、以下の例を参考にすること
 - 例) 市中肺炎に該当しないもの
 - ・ 入院48時間以降に病院内で発症した肺炎
 - ・ 重篤な免疫抑制状態
 - ・ 老人施設と長期療養施設で発症した肺炎
 - ・ 慢性下気道感染症の急性増悪
- ◆ 重症度等の「A-DROPスコア」とは、以下のうち入院時（入院中の発生は発症時）の状態に該当する項目の合計数をいう
 - ・ 男性70歳以上、女性75歳以上
 - ・ BUN 21mg/dL以上又は脱水あり
 - ・ SpO2 90%以下（PaO2 60Torr以下）
 - ・ 意識障害あり
 - ・ 血圧（収縮期）90mmHg以下

⑧主治医による診断群分類区分の適用の決定は退院時に行います（DPC対象病棟等以外への転棟含む）。

⑨定義テーブル等で使用されている手術、処置等の主な用語の定義は下表の通りです。

用語	定義
化学療法	悪性腫瘍に対する抗腫瘍薬、ホルモン療法、免疫療法等の抗腫瘍効果を有する薬剤の使用 * 入院中の処方に限る。手術中の使用、外来、退院時処方含まない * 抗生剤のみの使用、G-CSF製剤、鎮吐剤等の副作用に係る薬剤のみの使用等は含まない
動注化学療法	医科点数表第2章第6部注射の「G002動脈注射」で化学療法を実施すること
放射線療法	医科点数表第2章第12部放射線治療（血液照射除く）
定義副傷病	入院時併存症及び入院後発症傷病の両方
電気生理学的検査	医科点数表第2章第3部検査において保険医療材料別表Ⅱ区分114（2）の医療材料を、「O50070頻脈性不整脈」では3本以上、「O50210徐脈性不整脈」では2本以上使用して実施した電気生理学的検査
手術	医科点数表第2章第10部手術（輸血管理料除く）
全身麻酔	医科点数表第2章第11部麻酔の下記のいずれか L007開放点滴式全身麻酔/L008マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔
メトトレキサート大量療法	骨肉腫に対してメトトレキサート5g以上（バイアル換算で25本以上）投与する化学療法
神経ブロック（局所麻酔剤又はボツリヌス毒素） 神経根ブロック、神経ブロック（局所麻酔剤又はボツリヌス毒素） 腰部硬膜外ブロック、神経ブロック（局所麻酔剤又はボツリヌス毒素） 仙骨部硬膜外ブロック	医科点数表第2章第11部麻酔に規定される「L100神経ブロック（局所麻酔剤又はボツリヌス毒素使用）」の「1」の「神経根ブロック」、「2」の「腰部硬膜外ブロック」、「5」の「仙骨部硬膜外ブロック」